

# 校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

平成30年 7月23日 (月) 南日本新聞

南日本新聞の農林水産のページに本校の取組が掲載されたので紹介します。

## 学び舎から

## 薩摩中央高校



松元智秀教諭

薩摩中央高校は、農業の盛んな川薩地区のさつま町にある。生物生産科は野菜、草花、果樹、畜産の四つの専攻があり、地域の農家と連携した取り組みをしている。

草花専攻（3年時）では「さつまファームレディ倶楽部」と交流体験をしている。川薩の女性農業経営士で構成される倶楽部には花育部会（6人）が設置されており、2016年度から本校との連携が始まった。

生徒は部会員の農家で花苗の種まき、栽培や出荷の方法を学ぶ。現場で

## 花交流で地産地消を意識

は、多種類の花を極めて適切に扱う姿に驚きながら実習を進めてきた。担当の伊東智人教諭(37)は「草花生産の基本知識を身に付けたり、技術を磨いたりできる。地元の農家の人々のバイタリティや思いが伝わる活動だ」と説明する。

12月にはフラワーアレンジメント交流がある。地元で生産された草花を花材に使い、部会員に習いながら飾り付けることで、地産地消を意識するきっかけになる。17年度は草花専攻の6人が育てたハボタンも花材に加えた。9月に種をまき、鉢の移し替えなど自分たちで考えつつ、切り花用約100株を栽培した。

草花班とさつまファームレディ倶楽部とのフラワーアレンジメント交流



当日はハボタンのほか、部会員が手掛けたスプレーギク、アイビーなども持ち込まれた。部会員から「きれいに育てられたハボタンが今回のアレンジの中心」と言われると、生徒たちには笑みが浮かんだ。こうした体験は、生徒の確かな自信につながっている。「社会人になるための貴重な経験になっている」という生徒の声が聞こえた。

(薩摩中央高校教諭・松元智秀)